

「心豊かで、確かな学力と伝え合う力を持つ児童の育成」

～聞く力・話す力を高めるための書く活動を通して～

1. 研究の内容と方法

国語科の授業ではワークシートや振り返りカードなど、言語環境ではそれぞれの研究部会の取り組み活動において、感想メモや取り組みを活発にさせるワークシートなどに効果的な書く活動を取り入れていく。このような書く活動に取り組むことにより「考える」「感じる」「表現する」「創造する」ことがより活発になり、国語力や伝え合う力が育成されるであろうと考え、研究を深めていく。

1 ブロック研究

国語科の授業研究を中心に研究を進めていく。領域は「話す・聞く」の領域をできるだけ扱う。聞く力・話す力を高めるための書く力の育成。「話す・聞く」領域を中心に据え、それを支える手段としての書く活動の有効的な指導法を探った。具体的には、聞く力を高める効果的なメモ、話す力を高める効果的なメモ、話し合いを活発にさせるメモについて、メモの形式、活用方法、評価について実際に授業を行い研究した。

- (1) 第3学年 国語授業研究 金子佐由美 教諭
教材名「分類ということ」 (光村図書 上 P74-)
- (2) 第5学年 国語授業研究 小椋規雄 教諭
教材名「失敗をめぐって」 (光村図書 下 P50-)
- (3) 第1学年 国語授業研究 中村悦子 教諭
教材名「わたしは、なんでしょう。」 (光村図書 P56-)

2 研究部会研究

各研究の取り組みの内容を検討し、それらのどのような取り組み内容・方法がより子どもたちにとって有効なのか明らかにすることに努めた。そして、取り組み方法に書く活動を取り入れ、国語力の育成に取り組んだ。具体的な例として、親子川柳については、題材、取り組み方法、作品の紹介方法、感想の活かし方などについて。また書く活動と関わって感想メモなどの取り組みなどにより、効果的な教育活動を研究した。

- (1) ことばの時間部会
・群読、言葉の時間取り組み など

(2) 言語環境部会

- ・詩の窓, 言語環境調査 など

(3) 読書活動推進部会

- ・本の紹介, 親子読書, なかよし読書 など

(4) 地域連携推進部会

- ・親子川柳, ふるさとかるた など

(5) その他

- ・国語力と関係したPTA実践テーマへの取り組み
- ・学期末, 学期始めの子どもの意見発表への取り組み

II. 研究の成果

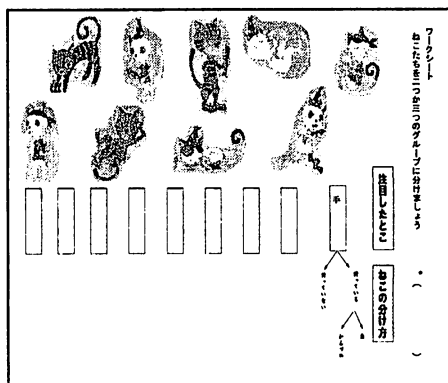
聞く力・話す力・話し合う力を高める効果的なメモの形式, 活用方法, 評価方法について理解が深まった。

— 例の数 —

例が1つでは表示形式を理解する段階のため, 全く同じ形式が出現する可能性が高く, 例が2つになると表示形式の意図が理解でき, 応用された形式が出現できる可能性が高くなると考えられる。

— 図や絵に記入すること —

絵に矢印などの記号と言葉を使って書き入れ, 思考を深めるメモとする。例えば, 矢印で目に注目させ, 「黄色」「青色」などと記入する。



— 記入する枠の数 —

何とか全部埋めようという心理が働き, 集中して取り組める。全部埋まらない場合には, 全部できなかったという不安が残り, 余った時間があれば残りを全部埋めようという心理が働く。全部の枠に記入した場合, 後でどういう形で追加していくか。下の空いているスペースに書く, 裏の白いスペースに書く, もう1枚紙を付け足して書くなど。

— ワークシートの形式分類 —

発表型 ……発表をするための補助的なメモ形式のワークシート

思考整理型 ……考えをまとめるうえで役立つ視覚的な要素があるワークシート

聞く型 ……聞き取るための補助的なメモ形式のワークシート

— メモするうえで大切なこと —

メモすることが話すこと・聞くことの妨げにならないようなものとする。

(研究主任 滝島正彦)